Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 18 号

渋谷駅前　晩年のハチ公とハチ公の銅像写真

いずれも1935年3月発行『カレッヂ・ライフ1935　青山学院商科』（卒業記念アルバム）の同頁に所収。青山学院生徒の中には、ハチの頭をなでて通学したものもいた。ハチは、1935年3月に亡くなっているので、最晩年の写真と思われる。
このアルバムをご寄贈いただいたことによってはじめて、銅像がハチの生前に建てられたいきさつを知る機会となった。

資料センター所蔵資料紹介
『明治四十四年改譯　マコ傳福音書』
―明治元訳から大正改訳にいたる「パイロット版」―　大島力 ―2

青山学院史探訪
「忘れられない　1964 東京五輪での学生通訳」　設楽淳二 ―4

資料センター利用状況・日誌抄 ―6

受入れ資料 ―7

利用案内ほか ―8

『明治四十四年改譯　マコ傳福音書』

― 明治元訳から大正改訳にいたる「パイロット版」―

青山学院宗教部長、大学経済学部教授　大島　力

日本において旧約聖書と新約聖書がすべて母国語で読めるようになったのは1887年のことであった。明治初期に日本に来ていたプロテスタント教会の宣教師が中心となり、日本人の牧師たちの協力を得て、聖書常置委員会訳『旧新約全書』が刊行された。その訳業に終始、尽力をしたのはJ. C. ヘボン（1815－1911年）であった。無論、その他多くの人々の協力を得てなされた訳業であったが、ヘボンの20数年にわたる努力は特筆すべきことである。所謂「明治元訳」の成立である。

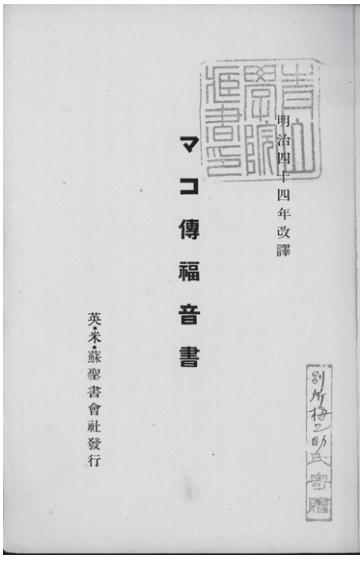
聖書改訳委員写真（左から川添万寿得、松山高吉、別所梅之助、C. S. Davison, H. J. Foss, C. K. Harrington, D. W. Learned）1913年（大正2）以後撮影

しかし、1900年以降、日本語の変化、また参考とされた英語の欽定訳聖書が1885年に改訳されたことなどにより、日本においても「明治元訳」の改訂の必要性と機運が高まってきた。そこで日本のプロテスタント諸教派の親睦組織である福音同盟会では、まず聖書改訳の特別委員を本多庸一と星野光多に委嘱し、宣教師および米国、英国の聖書会社との折衝と、改訳委員選定にあたらせた。その結果、D. C. グリーン、C. K. ハーリントン、H. J.フォス、C. S. デヴィソン、藤井寅一、別所梅之助、松山高吉、川添万寿得らによって改訳の作業がはじめられた。ここに青山学院の日本人最初の院長である本多庸一が重要な役割を果たし、また青山学院教授の別所梅之助が関わっていたということは興味深い。後に改訳された新約聖書は「大正改訳」と呼ばれるようになるが、その作業の初期から完成（1917年）に至る過程に、青山学院は密接な関わりをもっていたのである。

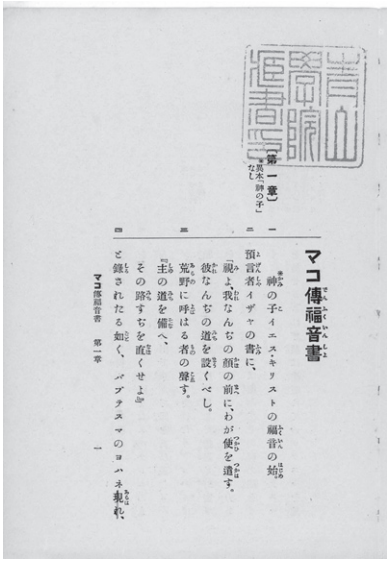
特に別所梅之助は改訳委員会の書記を務めており、「大正改訳」に関わる「聖書改訳委員会記録」と「改訳聖書原稿校本」は別所自身により、現在の青山学院資料センターに寄贈されている。これは「明治元訳」から「大正改訳」に至る改訳過程を知るための第一次資料であり、極めて貴重なものである。資料センターではこれを一括して木箱に収めて保管している。また、学内外の研究者はこれを利用して聖書の訳語の変遷、また明治期から大正期にかけての日本語の変化を探る研究対象としている。

改訳の仕事は1910年から1917年にかけて行われた。会場は青山学院神学部の三階の一室であり、日曜日を除き毎日午前９時から午後４時まで委員らは訳業に従事した。そうしてマルコ福音書の初稿ができ上り、推敲され、広く意見を徴するため試訳として印刷頒布された。

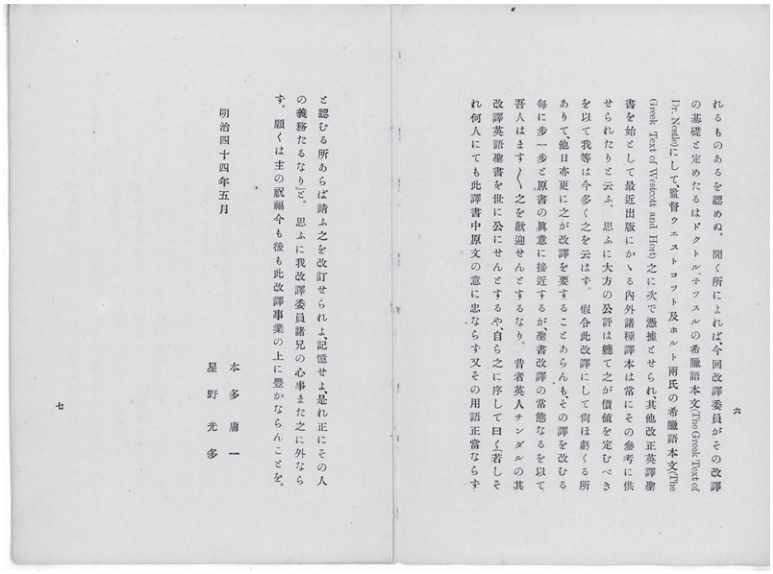
この試訳は『明治四十四年改譯　マコ傳福音



『マコ傳福音書』表紙



『マコ傳福音書』第一章



『マコ傳福音書』序文

書』と題されている。資料センターに寄贈したのは、改訳委員会の書記をしていた別所梅之助である。また、本多庸一と星野光多の連名による「改譯マコ傳福音書に序す」という序文が冒頭に記されている。明治44年（1911年）は本多庸一死去の前年であり、その晩年の意義ある仕事であったと言えよう。序文は７頁に亘るが、冒頭には以下のように記されている。

「聖書が一たび其國語に翻譯せられたる國に於いては、その後幾何もなくて之が改譯の擧あること實に止むべからざるものなり。こは一方に於いてその國語に變遷あると同時に、他方に於いて聖書解釋に関する智識に進歩あればなり」。

このことは現在も全く変わりないことである。聖書は常に当該の母国語の変化と聖書学的知見の深化に伴って、改訳されていくべき書物なのである。さらに巻末には翻訳委員長のD. C. グリーンによる英文の序文が付されている。そこには、冒頭の序文においても述べられているが、翻訳するテキストとしては英国聖書会社発行のネストレ版聖書を用い、問題箇所では改訂英訳聖書（Revised Version）を参考にすることなどが明記されている。

この『マコ傳福音書』の発行は、「明治元訳」の改訳が以前より求められていただけに反響は大きかった。また、事業の主導権はいまだ宣教師たちにあったが、日本人が正規の委員として最初から加わったことには注目すべきであろう（海老澤有道氏の指摘）。事実、植村正久は「今まで出来た翻訳中で最も優れたもの」であるとし高く評価し、マルコの簡潔な文体をよく現し、しかも平易で読みやすく、「日本語の日本文」として及第点を与えている。ただし、「マコ」はやはり原語の発音に近い「マルコ」がよいとしている。実際、1917年に『改訳　新約聖書』が発行された時には「マルコ傳福音書」に改められている。

いずれにせよ1911年発行の「マコ傳福音書」は、「明治元訳」から始まった日本における本格的な聖書翻訳の事業が、さらにギリシア原典に基づいてなされ、また日本人自身の手によって分かりやすい「日本語の日本文」として練られていく過程に位置する「大正改訳　新約聖書」のパイロット版である。その発行に青山学院が人的に深く関与し、また具体的な訳業の場所としても貢献していたことは、記憶に留めておくべきことであろう。

参考図書：海老澤有道著『日本の聖書―聖書翻訳の歴史―』（講談社学術文庫）1989年
鈴木範久著『聖書の日本語』（岩波書店）2006年

忘れられない　1964東京五輪での学生通訳

青山学院大学文学部英米文学科卒業　設楽淳二

2013年９月16日、古巣の読売新聞朝刊で懐かしい名前を見つけた。見出しに「アブドン・パミッチさん79（イタリア）陸上男子50㌔競歩 金」とある。49年前の東京オリンピックで初めて言葉を交わした外国人選手の名前である。青山学院大学を卒業してから52年間、忘れることのなかったあの「1964東京オリンピック」。いろんな人々の姿とともに、あらためて忘れられない思い出が蘇ってくるのを感じた。この東京五輪では幸いにも学生通訳として貴重な体験をしていたからだ。

この記事を読む前の9月8日に日本で第2回目となる2020東京オリンピックの開催が決まっており、読売では早速［エール 1964から］というオリンピックに関する連載を開始していた。掲載されたパミッチさんの写真はすっかり白髪頭になっていたがまぎれもなくあの顔だった。記事中のインタビューで彼は「2020年の開催都市は、東京になると確信していた。1964年の東京五輪は、大会運営が完璧だったからだ。次回もすばらしい五輪になると期待している」と語っていた。

東京五輪開催を翌年に控えた1963年６月中旬のこと、1号館と学生会館の間にある掲示板に、「学生通訳を募る　オリンピック組織委員会」の紙が貼り出されていた。私が2年生の時である。早速応募して24日(月)に面接を受け、首尾よく「学生通訳」にパスすることができたのだった。

青山からは２、３年生が26人、陸上競技担当として選ばれた。６月28日、当時組織委員会が置かれていた四谷の赤坂離宮へ招かれ、日本陸連の役員と顔合わせをした。陸連はわれわれ学生を丁重に迎えてくださり、「『英語の青山』のみなさんには期待してますよ」と歓待され、ちょっと緊張してしまった。赤坂離宮からキャンパスへ帰ったあと、当時の大木金次郎学長からも「大学を代表するという気概で頑張って欲しい」と激励され、身の引き締まる思いだった。

上智大学を会場に学生通訳の講習が何度か開催され、都内18大学から約200人が参加した。大学側の計らいで授業は欠席扱いとならず、それは翌年の東京五輪まで適用されたのはありがたいことだった。アドグルでご指導いただいたガントレット先生（J.O.Gauntlett）が講習会講師を務めるなど、他大学に比べて青山の学生が一番多かったこともあって、心強く感じた。

通訳身分証明書

10月には本番五輪の予行練習としてプレオリンピックが種目毎に開催され、私は陸上トラック競技の出発合図員（スターター）の通訳という仕事が与えられた。新橋の第一ホテルが仮の選手村だった。事前練習を希望する選手を練習場へ案内するのが私の初仕事で大型バスにたった一人を乗せて日吉の慶應大学グラウンドへ向かったが、その時の選手が物静かなアブドン・パミッチ選手だった。

練習が終わり、シャワーを浴びたいというので、慶應の職員にたずねてシャワー室へ案内したのだが、間もなくでてきたパミッチ選手が「お湯が出ないじゃないか」と両手を広げ大きな声で怒る。職員に聞くとお湯は出ないのだという。10月とあってはパミッチ選手が怒るのも当然なことと思った。帰りのバスではちょっと気まずい雰囲気になってしまい、こんな設備で本番は大丈夫なのだろうかと心配にもなった。このパミッチ選手が翌年の本番に50km競歩で優勝したのだ。

「スタートの神様」と一緒に

配布された英語のルールブックは、まだコピー

機のない時代で建築設計図に使う青焼きの片面複写を綴じたぶ厚いものだった。このルールブックに沿って、スタートなど競技全般を指導してくださった主任スターターが、当時学芸大学教授をしていた佐々木吉蔵先生。「スタートの神様」と言われた方。「暁の超特急」こと吉岡隆徳さんとベルリンオリンピック100mに出場している。古武士の風格を漂わせる方で、『よーいドン スターター30年』などの著書があり、一発でスタートさせることをいつも心がけておられた。

組織委員会と大学に感謝

本番を迎える1964年の夏には、富士山麓の御殿場にある「国立青年の家」で3泊4日の合宿研修が行われた。

元米軍施設だという宿泊設備は粗末なかまぼこ兵舎そのままで、鉄パイプ製のベッド10台程度がコンクリート床の上に向かい合って並んでいるだけ。ここでも青山の仲間が多いことは心強いことだった。グループには2、3人ずつアメリカンスクールの11年生、12年生がまざって一緒に生活した。毎日の生活は日本語を使わず、全部英語でやれということ。指導にあたるのは世界のプロの通訳。最低3カ国語、多い人は5カ国語を操る。世界は広いなと思ったものだ。毎朝富士を仰ぐグラウンドで国旗を掲揚する規則正しい生活はいま思い出しても爽やかな気分になる。

宿舎前で記念撮影

合宿が終わるとオリンピックは本番ムードになり、全体講習はなくそれぞれ担当役員から呼ばれて国立競技場などで打ち合わせをした。

9月はじめに制服が支給された。男女とも黒のカシミヤドスキン（このとき初めて知った言葉）に白いモールの縁取りがあるブレザーで胸には日の丸と五輪のエンブレム。エンジのネクタイ、五輪マークいりタイピン、グレーのズボン、紐なしの黒い靴まで――。学生服しか持っていない私には初めて着る背広は嬉しかった。この制服が芦田淳のデザインだったことは最近新聞で知った。

支給された制服を着用

9月15日には代々木の選手村がオープン。毎日下高井戸の下宿から制服姿で通うのは恥ずかしくもあり、誇らしくもあった。選手村の練習用トラック「織田フィールド」には選手たちが毎日スタート練習に訪れ、日本語で「いちについて　よーい　ドン」の練習をした。必要に応じて選手たちの質問に答えるのが私の仕事だった。

各国の国旗がはためく選手村は国際色豊かで、乗り捨て自由の自転車を駆って選手たちは思い思いに移動する。他の陸上種目を担当する青山の仲間も織田フィールドにやってきては、「これが平和っていうことなのかな」と話し合ったことを覚えている。無料サービスだったコカコーラを初めて飲んだのもこの選手村である。「身分証明書を見せれば電車はタダだって」といううわさを信じ毎日選手村、競技場までタダ乗りしたが、あれでよかったのかどうか――。

そして10月10日の開会式。前夜までの雨が信じられないような青空だった。古関裕而のオリンピックマーチ。大空に描かれたブルーインパルスによる五輪マーク。会場案内という名目で学生通訳を会場に入れてくれた組織委員会のしゃれた心遣いにはいまも感謝している。

陸上競技が始まった14日から21日まで、毎日「よーい　ドン」のある競技にはすべて付き合った。疲れなど感じる暇もない高揚感に満ちた毎日だった。100mのボブ・ヘイズ、マラソンのビキラ・アベベ、円谷幸吉、20km競歩のアブドン・パミッチ……。目の前で展開された数々のドラマがいまでもきのうのことのように目に浮かぶ。

選手村織田フィールド

資料センター利用状況等（2017年10月～2018年3月）

1. 月別利用者数（　）内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
展示見学者数		166	(242)	158	(153)	135	(101)	49	(174)	63	(49)	171	(228)	742	(947)
資料閲覧者数		18	(14)	12	(15)	20	(13)	7	(14)	8	(14)	7	(17)	72	(87)
閲覧者の区分	本学学生	1	(1)	0	(3)	1	()	1	()	1	()	1	()	5	(4)
	現教職員	5	(4)	3	(2)	3	(2)	2	(2)	1	(2)	2	(2)	16	(14)
	旧教職員	7	(6)	6	(6)	9	(8)	3	(9)	0	(7)	2	(8)	27	(44)
	校友	5	()	0	()	2	()	1	()	0	(3)	0	(1)	8	(4)
	他大学教員	0	()	0	()	3	(1)	0	(1)	5	(2)	1	(3)	9	(7)
	牧師	0	()	0	(2)	0	()	0	()	0	()	0	()	0	(2)
	一般	0	(3)	3	(2)	2	(2)	0	(2)	1	()	1	(3)	7	(12)
利用の目的	教会史編集	0	()	0	()	0	(1)	0	()	1	(1)	0	()	1	(2)
	学校史編集	9	(6)	3	(5)	9	(7)	4	(9)	0	(9)	0	(8)	25	(44)
	著述・論文作成	1	(2)	1	(5)	5	(3)	2	(2)	3	(2)	2	(3)	14	(17)
	伝記資料調査	0	()	0	()	1	(1)	0	()	1	(1)	0	(2)	2	(4)
	記録類の調査・研究	2	(2)	2	(2)	0	()	0	(3)	1	(1)	2	(1)	7	(9)
	その他	4	(5)	4	(2)	6	(2)	1	()	2	(2)	4	(3)	21	(14)
資料の種類	青山学院史関係（AA）	12	(9)	8	(8)	18	(11)	5	(12)	3	(10)	2	(16)	48	(66)
	メソジスト教会関係（B）	0	()	1	(3)	0	()	1	()	3	(2)	3	(2)	8	(7)
	英語・英文学関係（旧F）	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	明治期キリスト教関係（G）	0	(1)	0	(3)	2	(1)	0	()	1	(1)	0	()	3	(6)
	一般分類図書	2	(3)	3	(2)	0	(2)	1	(4)	2	(1)	0	()	8	(12)
	その他	3	(1)	1	()	0	()	0	()	0	(1)	1	()	5	(2)
資料の形態（閲覧点数）	図書	53	(54)	22	(42)	88	(46)	18	(30)	33	(34)	31	(58)	245	(264)
	マイクロフィルム	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	写真（含ネガ）	0	()	0	()	3	()	0	()	0	()	0	()	3	()
	アルバム	4	(1)	11	()	0	()	0	(50)	1	()	0	()	16	(51)
	個人資料ファイル	0	()	0	()	1	(1)	0	()	0	(1)	0	(2)	1	(4)
	ビデオ・DVD等	1	()	0	()	1	()	0	()	0	()	0	()	2	()
	その他	0	(5)	1	()	0	()	0	()	0	()	0	()	1	(5)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数（　）内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
件数		5	(7)	3	(6)	2	(4)	2	(3)	2	(5)	2	(3)	16	(28)
質問者の区分	学生	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	現教職員	2	(4)	0	(1)	1	(1)	2	()	2	(3)	1	(2)	8	(11)
	旧教職員	0	()	2	()	0	()	0	()	0	(1)	0	(1)	2	(2)
	校友	3	(3)	0	()	0	(2)	0	()	0	()	0	()	3	(5)
	一般	0	()	1	(5)	1	(1)	0	(3)	0	(1)	1	()	3	(10)
質問内容	文献所蔵調査	0	(1)	1	(2)	0	(2)	0	()	0	(3)	0	(1)	1	(9)
	写真所蔵調査	4	(2)	0	(1)	0	()	0	(1)	0	()	0	()	4	(4)
	事項調査	1	(4)	1	(3)	1	(1)	0	()	1	(2)	0	(1)	4	(11)
	その他	0	()	1	()	1	(1)	2	(2)	1	()	2	(1)	7	(4)

3. 日誌抄

10月
- 大学主催「聖書展」展示準備、打合せ
- 大学主催「聖書展」開催（～11/1）
- 初等部80周年記念誌用写真調査、撮影
- 安全衛生委員会による職場巡視
- 他部署主催会議に出席　3回
- 第2回資料センター運営委員会開催
- 150年史編纂のためのインタビュー　1回
- 大学教授来室、150年史編纂のため　12回

11月
- 初等部創立80周年記念、中等部創立70周年記念特別展示開催（11/15～12/22）
- AOYAMA VISION研修会に参加　1名
- 防災館体験学習に参加　1名
- 他部署主催会議に出席　3回
- 150年史編纂のためのインタビュー　1回
- 150年史編纂事務定例打合せ会開催
- 大学教授来室、150年史編纂のため　10回

12月
- AOYAMA VISION研修会（サーバントリーダー）にて、レクチャー担当
- 芝浦工業大学が公開講座打合せの件で来室
- クリスマスカードを米国在住宣教師へ送付
- 米山梅吉記念館へ書軸を返却、及び墓参り
- 他部署主催会議へ出席　2回
- 『Archives Letter』17号発行
- 大学教授来室、150年史編纂のため　8回

1月
- 芝浦工業大学が公開講座打合せの件で来室
- 他部署主催会議に出席　2回
- 大学入試センター試験業務お手伝い

・大学教授来室、150年史編纂のため　9回

2月

・押絵雛展示（2/17～4/末）
・歴史資料館検討ワーキンググループ打合せ会開催
・６号館地下資料を5号館へ移動（150年史編纂のため）
・大学入試業務お手伝い
・他部署主催会議に出席　2回
・150年史編纂のためのインタビュー　2回
・大学教授来室、150年史編纂のため　11回

3月

・「青山学院を語り合う会（座談会）」打合せ
・歴史資料館検討ワーキンググループ打合せ会開催
・第3回資料センター運営委員会開催
・緑岡幼稚園創立80周年記念礼拝（資料展示）
・関西学院大学へ視察、ヒアリング
・他部署主催会議に出席　2回
・大学教授来室、150年史編纂のため　11回

2017年度後期受入れ 資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈

（敬称略）

●**青山学院大学電気電子工学科同窓会**　「青山学院大学電気電子工学科同窓会報」第21号　2017年9月
●**株式会社アイビー・シー・エス**　『IVYCS通信-アイビックス通信-』第131号～136号　2017年10月～2018年3月　各1
●**大石弘美（校友・職員）**　青山学院中等部　校章
青山学院高等部×宮高2013　缶バッジ
●**吉田恵子（校友・元職員）**　昭和36年度青山学院中等部入学考査票　吉田純
青山学院中等部　生徒手帳　昭和37年度、昭和38年度　各1、ほか幼稚園、初等部、中等部、高等部関係資料多数
●**落合建仁（校友）**　『日本プロテスタント教会史の一断面』落合建仁著　2017年9月25日
●**吉川弘文館**　『世界史のなかの天正遣欧使節』伊川健二著　2017年10月1日
●**安藤淑子（校友）**　椙田義武（元教員）宛葉書　大連・伊藤から　明治42年9月1日大連消印、ほか10点
●**木下實（校友）**　緑岡小学校文集「うめ」　昭和17年3月
緑岡幼稚園保育證書　木下實　昭和16年3月20日
●**堀川博生（校友）**　緑岡小学校　二学年修業證書　堀川博生　昭和16年3月22日、ほか4点
●**下河邊史郎（校友）**　「スキー黎明期の思ひ出など」　坂岡奈保志著　昭和10年1月1日、ほか7点
●**白根記念渋谷区郷土博物館・文学館**　『特別展　渋谷駅の形成と大山街道』白根記念渋谷区郷土博物館・文学館編　平成29年10月27日
●**原田純子（校友）**　青山学院中等部卒業証書　原田純子　昭和42年3月20日、ほか5点
●**有限会社港の人**　『開成所単語集Ⅱ』桜井豪人著　2017年8月3日
●**佐伯紘（校友）**　青山学院初等部6年桜組卒業時制作の絵（巻物）佐伯紘画　昭和30年、ほか8点
●**保村和良（校友）**　「西北両津軽遊行の記」本多庸一・元木定雄共著　『青森新聞』第390号～第407号に掲載　明治14（1881）年7月～9月
「本多先生の講演（1）～（7）」本多庸一著　弘前新聞　第4159～4161号、第4163～4166号に掲載　明治44（1911）年7月
●**石出道雄（元教員）**　青山学院新講堂（プラット･スプロールズ講堂）落成記念絵葉書セット　昭和26年6月19日
青山学院中等部絵葉書セット　作成年不明
青山学院創立85周年記念（1874～1959）葉書　昭和34年11月2日
●**青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会**　『グリーンハーモニーOB NEWS』No.56　2017年11月
●**青山学院高等部同窓会**　『青山学院高等部同窓会報』74号　2017年12月1日
●**中積治子**　『武相の女性･民権とキリスト教』　武相の女性･民権とキリスト教研究会編　2016年5月31日
『横浜の女性宣教師たち　開港から戦後復興の足跡』横浜プロテスタント史研究会編　2018年3月10日
●**学校法人敬和学園**　『敬和学園-その歩み』　2017年9月30日
●**長井伸仁**　『「上智大学における学徒出陣」-その歴史と記憶-』長井伸仁著　2017年11月
●**藤井多恵子（校友）**　青山学院緑岡小学校　入学許可通知　藤井多恵子　昭和13年2月20日、ほか7点
●**青山学院大学文学部英米文学科同窓会**　大学文学部英米文学科同窓会会報　Aoyama Sapience　第38号 2017年12月15日
●**米戸一雄**　我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書改訳　1946年
●**齊藤進**　本多庸一書軸「心の貧き者は福なり～　小静庸一書」マタイ伝5章3節～12節
●**川上善子**　T.J.キッチン夫妻結婚写真　1954年10月19日　2種類
キッチン夫妻から小原慧子にあてた葉書　昭和37年12月22日消印
●**岡部一興（元大学非常勤講師）**　『長谷川誠三宛書簡』岡部一興著
『長谷川誠三宛書簡（その2）』岡部一興著
［長谷川家の人々に宛てた岡部一興からの手紙］2018年1月31日
長谷川誠三に関する『東奥日報』の記事　2017年1月1日、2018年1月1日
●**深町正信（12代院長）**　矢島鈞次（元大学教員）　自筆原稿「健康の傲慢」
●**庄司一幸**　『日本基督教団二本松教会百年史』　2018年2月20日
●**梅津順一（14代院長）**　『東亜の子かく思ふ』蔡培火著［1982年複製印刷］
●**松山市教育委員会**　『ふるさと松山学　語り継ぎたいふるさと松山百話Ⅳ　広がる故郷のこころ』平成30年3月12日（勝田銀次郎の紹介あり）
●**青山学院女子短期大学同窓会**　青山学院女子短期大学同窓会会報　第43春号、秋号　2017年4月、10月　各1
●**髙橋和子（校友）**　青山学院高等女子部本科　アドレス帳　昭和11年
青山　第一号　昭和12年
楽譜一式（**次頁写真①～④**）、ほか多数
●**青森県**　『青森県史　通史編3　近現代　民俗』2018年3月15日

購入

●英文学研究部誌余禄　英吉利文芸1　黒田紀也　1930年
●信仰の小女4版　村上俊吉　1899年（**次頁写真⑤**）
●懐疑者との談話　片山義行訳　基督教書類会社　1896年
●奇跡釈義　ツレンチ原著、ゼームス・ハインド訳、渡邊顯訂正　基督教書類会社　1902年
●北海道開拓雑誌 創刊号～24号 合本　津田仙編　東京学農社　1880年
●造物主を信ずることの国民の進歩に及ぼす影響　ヂェ・エチ・デフォレスト著　基督教書類会社　1893年
●聖書修身談　ボーカス編　デキンソン　常磐社　1908年（**次頁写真⑥**）
●牧者　第5号　青山学院中学部基督教青年会　1931年
●科学的方式により基督を批判す　ベンジャミン・ハワルド述、櫻井成明訳　基督教書類会社　1892年

●青山学院初等部39年卒文集　担任:菊地美代子　青山学院初等部　1964年
●希望　青山学院初等部卒業記念文集　青山学院初等部　1956年
●青山学院初等部　第10回卒業式次第　青山学院初等部　1956年
●「児童の概況　昭和30年度」青山学院初等部　青山学院初等部　1956年
●栄養改善の手引（其一）佐伯矩　全国母の會本部
●あかしや　アカシヤグループ　青山学院中等部内アカシヤグループ　1949年
●児童作品集　三澤進　青山学院初等部2年梅組　1951年
●なみ　松江栄　青山学院初等部卒業生なみの会　1952年
●我は福音を恥とせず　ウードウォルス　基督教書類會社　1898年
●万有神教の影響　デフォレスト　基督教書類會社　1893年
●佛道新論　高橋吾良　高橋吾良　1882年
●新文明の利弊　加藤弘之　金港堂書籍株式会社　1908年（**写真⑦**）
●翁問答　ゼービ、ヘール著　岩崎寛達訳　基督教書類會社　1893年
●天地大原因論　山崎為徳著　今村謙吉　福音社　1888年
●神の約束　基督教書類会社　1891年
●基督に於ける信仰　アイ・シイ・ゴッフ述　基督教書類会社　1892年
●凱旋の諸君に贈る　山本邦之助（元青山学院教員）編　山本邦之助　日本基督教青年会同盟　1905年（**写真⑧**）
●青年の誘惑　ゼ、アール、モット述、矢部外次郎編　矢部外次郎　福音社書店　1908年

写真①楽譜表紙
「歓迎の歌」

写真②楽譜表紙
「少女の友の歌 聖き鈴蘭」

写真③楽譜表紙
「少女の友の歌 少女なれば」

写真④楽譜表紙
「日本讃歌」

写真⑤「信仰の少女」

写真⑥「聖書修身談」

写真⑦「新文明の利弊」

写真⑧「凱旋の諸君に贈る」

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学
青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。
公開時間　月～金曜日　▼9：30～17：00（入館は16：30まで）
　　土曜日　　▼9：30～13：00（入館は12：30まで）
※6/25（月）～8/5（日）まで、史学科50周年記念展示を開催中です。（展示室4）
※夏期期間（8/6～9/13）の公開時間は、9：30～16：00（月～金曜日）です。

●休室日
日曜日·国民の祝日·年末・年始・その他学院が定める休日、夏期期間：
一斉休業期間<8/6（月）～8/12（日）>、8/15、8/22、8/29の水曜日、8/18、8/25、9/1、9/8の土曜日

●資料閲覧
青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。
閲覧時間　（いずれも昼休み11：30～12：30）
月～金曜日　▼9：30～17：00　　土曜日　▼9：30～13：00
※夏期期間（8/6～9/13）の閲覧時間は、9：30～16：00（月～金曜日）です。

●問い合わせ
TEL　03（3409）6742　　FAX　03（3409）8134
メールアドレス　ag-archives@aoyamagakuin.jp
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらもご覧ください。
http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/

資料センター運営委員

院長（職務上）	山本与志春	高中部（高）　教員１人	佐藤　隆一
常務理事１名（職務上）	楯　香津美	高中部（中）　教員１人	森田久美子
学院宗教部長（職務上）	大島　力	初等部　教員１人	窪田　靖
大学図書館長（職務上）	近藤　泰弘	幼稚園　教員１人	矢部　尚子
大学　教員１人	小林　和幸	総局長（職務上）	石黒　隆文
女子短期大学　教員１人	清水　康幸	資料センター事務長（職務上）	岩本　智実

資料センタースタッフ人数

資料センター事務：
　専任　3人　　派遣　1人
　パートタイム　3人
　（週3日：2人、週5日：1人）
『青山学院150年史』編纂事務：
　有期職員　2人
　パートタイム　　2人
　（述べ週４日）

Aoyama Gakuin Archives Letter
青山学院資料センターだより　18号

青山学院資料センター編・発行
2018年７月20日発行

印刷：三美印刷㈱
1,500部